

令和7年度双葉町復興町民委員会（第2回）

議事概要

日 時：令和7年3月23日（火）10：00～12：00

場 所：双葉町役場 大会議室2

議 事：

（1）「双葉町復興まちづくり計画（第三次）」の進捗状況について

- 復興まちづくり計画（第三次）に掲げる112事業について現時点でABCの評価を一覧で見るとは可能か。
→（事務局）現時点では一覧で用意していない。検討し、今後ご相談させていただきたい。
- 進捗状況のCを見ることはできないが、代表的なものをご説明いただきたい。
→（事務局）プレミアム商品券、双葉町の移住支援金交付事業などが含まれている。
- これからのまちづくりの中で、11ページに記載が確認できないが、防犯、災害の備え、自助、共助、公助についてどのように確立していくのか。浪江の葛西先生を呼び、自助、公助をどうするか検討している。自助や公助があれば双葉に住んでもいいと思うのではないか。
→（委員長）防犯、防災、コミュニティ形成など、コミュニティを作りながら人が増えていくということを想像しながら計画はできるのではないかと。

（2）「双葉町復興まちづくり計画（第四次）」基本構想（案）について

- まずは町内居住人口を増やすため、住宅を整備する必要があると話した。中野地区に勤めている方が町外から通勤しており、町内での住宅施策を充実させていく必要がある。
- 基本計画が、双葉町に投資を促すガイドブックとなるとよい。避難している方も、帰還しなくともふるさとが復興していくことは嬉しいことだと思う。町が立ち上がるのは大切で、帰還しないまでも何かしらの関わり方のメニューが揃っているとよい。
- 現状の人口200人から人口増加を実現するためには、移住が重要になってくる。縁も所縁もなかったが、双葉町は面白そうと思ってもらえる計画やアクションがあり、皆で動かしているということが見えるガイドブックがあるとよい。お金を出すだけでなく、人もやってくるような土地になるとよい。
- 将来目標人口について、令和18年に700人、中長期的に1500人という数字が記載さ

れているが、この数値目標には賛成である。将来目標人口について、令和 18 年に 700 人、中長期的に 1500 人という数字が記載されているが、この数値目標には賛成であるが、元町民が様々な事情があり帰れない場合もあり、移住者が急に増えると今までの住民が戻りにくくなってしまうということも懸念される。少しずつ増やしていきながら、移住者と今までの住人のコミュニティを形成し、10 年かけて今までの住民が戻れるような計画を進めていけるいいと思う。

→（委員長）ライフステージが変わる時でないとなかなか移動できない。着実に実現できる数値目標だと思うが、個人的には中長期目標が 1500 人は少ない。

- 10 年後に 700 人、中長期的に 1500 人という数字にしたのはなぜか。
 - （事務局）避難指示解除から 4 年経過し、施策による効果の積算ができるようになった。その結果 700 人、1500 人という数字が見えた。
 - （委員長）生業による就業人口や学校がないことなどを根拠に積み上げている。硬い見積もりをしている。
- 基本理念に「人の営みを原動力に」とあるように人が大切ということが根幹だと思うが、資料は土地とハードの話が中心。人を中心とした計画の位置づけをしっかりとの方がよい。芸術系の大学と連携するのはどうか。
 - （事務局）人に対する支援について、学生が多く来るなど注目されていると感じている
- 17 ページ、町の周辺をコンパクトにして人口密度を上げないと持続可能にするのは難しい。関係者や町民の皆さんに丁寧に伝えていく必要がある。集落・農地・里山の避難指示解除されていないエリアも双葉町にとって大事な土地があるので、使えるようにしていきたい。
 - （事務局）河川などは除染が関わってくるので関係機関と協力していきたい。
- 双葉への関わりの多様性について、仕事の種類があまり多様でないので増やしていきたい。
 - （事務局）今後起業家向けの施設等を準備する。
 - （委員長）新しく起業したい人の受け皿になるといい。
- 浅野燃糸では若い女性の職員が 14 人ほど増えたが、双葉町民は 0 だと聞いている。理由は双葉町に住む所が無いから。当面は 2 拠点生活をしてもらうことも考えるべき。
 - （委員長）どれだけ住宅を供給できるか。通常の市町村としては公営住宅の数は多い。維持管理費がかかるのであまり持つべきではない。支援などをどうするか考える必要がある。

- 町の職員に計画はどれだけ伝わっているのか。
 - （事務局）資料4の3ページの通り、復興推進課や事務局が中心となる計画ではあるが、役場の各課から代表を出して幹事会を行い、さらに推進会議でも計画を練っている。また、全職員を対象に情報共有会議で計画の進捗などを共有している。全体で議論を調整することを意識した。
- 周辺市町との連携強化は大きい施設をすべての市町に持つのは人口の関係でもったいないから。どの町からも公共移設にアクセスしやすいようにすることが書かれている。
 - 人口を増やすには家庭を持った人に移住してもらい、その子供も双葉に住んでもらうために勤め先を確保する必要がある。
 - （委員長）経済成長期は大企業が多く多くの労働力を欲して人を吸収していたが、今の時代では当時ほど人口流出しないと思う。
- 将来目標人口について、人口の6割が移住者で今後も移住者が増えると思うが、移住の理由などについてのアンケートはとったのか。
 - （事務局）アンケートは取っていないが、ワークショップ等で個別に聞いている。
- （委員長）過疎地での成功事例として、面白い人が面白い人を呼び増えるケースが多い。そのようなケースを目指すといいのではないか。
- 日本で初めての原子力発電所の爆発事故で一番打撃を受けた双葉町が特化して研究していくべき。
 - （事務局）挑戦が生まれるまち③にそういった方向性を記載している。
- 資料2、11ページのフォローアップで見えてきた主な課題、防犯と防災について。防災・減災の活動や防災意識の向上の為に防災士の必要性を感じている。
 - 防災士は現在双葉町に5名。横の連携はできていない。自主防災組織を作って、自助・共助を行ってほしい。

（3）令和8年度双葉町復興まちづくり計画（第四次）の策定スケジュールについて

- 会議へふれあいクラブに参加してほしい。
 - （事務局）クラブに確認したうえで可能なら参加してもらえるように検討したい。
- 18ページ、南地区の地図も入れてほしい。
 - （事務局）地図を広げる形で対応したい。
- 15ページ、昔の面影が残る建物や景観を生かした街並みとはどのあたりをイメージしているのか。
 - （委員長）町のシンボルのイメージを事務局に伝えていただきたい。

→双葉町といえば桜だと思う。

→（事務局）建物の解体が進んでいるので、表現自体を変えるか悩んでいる。

→（委員長）「再生」のような表現を入れるといいかもしれない。

- 自助・共助を中心とした地域福祉の仕組みづくりなどが基本計画に入っていると安心できる。

→（委員長）手厚い福祉ではなく助け合いというのは素晴らしい視点。どう実現するかを考えていきたい。

- 資料4の3ページ、町内祭り・イベントに適宜意見聴取とあるが、イベント参加者にまちづくり計画の意見を聞くということか

→おっしゃる通り。ダルマ市で計画の将来像を展示したが、他のイベントでも意見聴取をしてきたい。

- 10年で700人という目標について、町民や関係者に考える時間ができてよい。

- 資料3の5ページ、双葉町の文化について、神社や薬師堂など文化財の保存について町は関わらないのか

→（生涯学習課長）文化財保護は行っていくが、神社やお堂については政教分離の関係で手出しできない。ご理解いただきたい。

→（委員長）四次計画を作る中で議論しながら盛り込んでいきたい。

以 上